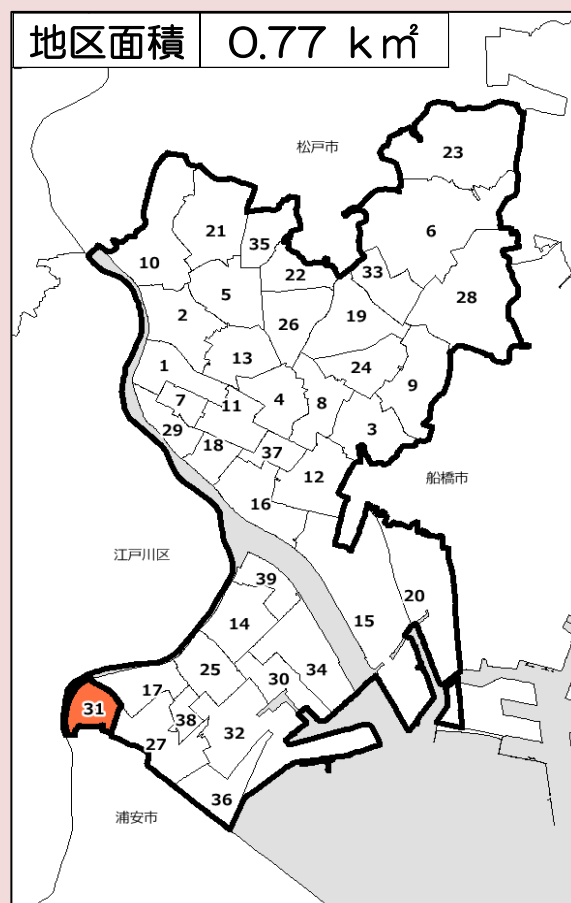


31 新井小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

新井小学校区は市の南西部に位置し、地区の北西側は旧江戸川に面しています。また、南側に浦安市が隣接しています。

◆地形・土地利用

地形は、砂州・砂丘及び氾濫平野で構成されています。地区の中央は第一種住居地域の住宅地となっており、戸建て住宅やマンションが多く建ち並んでいます。地区の北西側は工業地域であり、数多くの工場が立地しています。

◆都市基盤

地区内の北から東側にかけての一部は、土地区画整理事業により整備されています。北側に県道50号線、東側に県道6号線が通っています。地区内には災害時の拠点となる広尾防災公園があります。また、地区内には、東西線浦安駅行きの京成トランジットバスや市川市コミュニティバスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

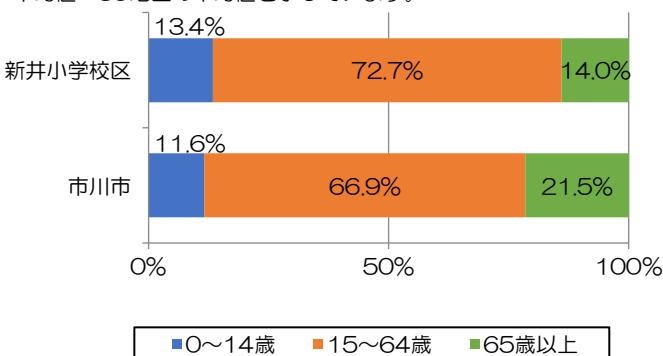
年齢別割合

	新井小学校区	市川市	割合※
人口総数	13,026人	492,564人	2.6%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	12,630人
-----	---------

平均値：39地区の平均値を示しています。



◆建物

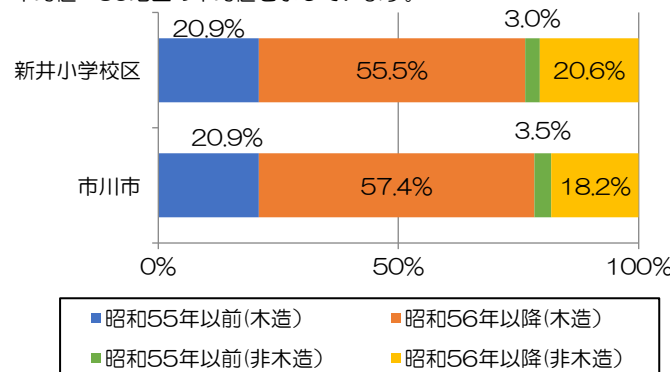
構造別割合

	新井小学校区	市川市	割合※
建物総数	1,793 棟	107,267 棟	1.7%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	2,750棟
-----	--------

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口よりやや多いです。市全体と比較すると15～64歳の割合が高く、現役世代が多い地区となっています。

地区の建物は平均よりやや少ないです。昭和56年以降の新耐震基準の建物割合は市全体と同程度です。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

(4) 災害リスク評価

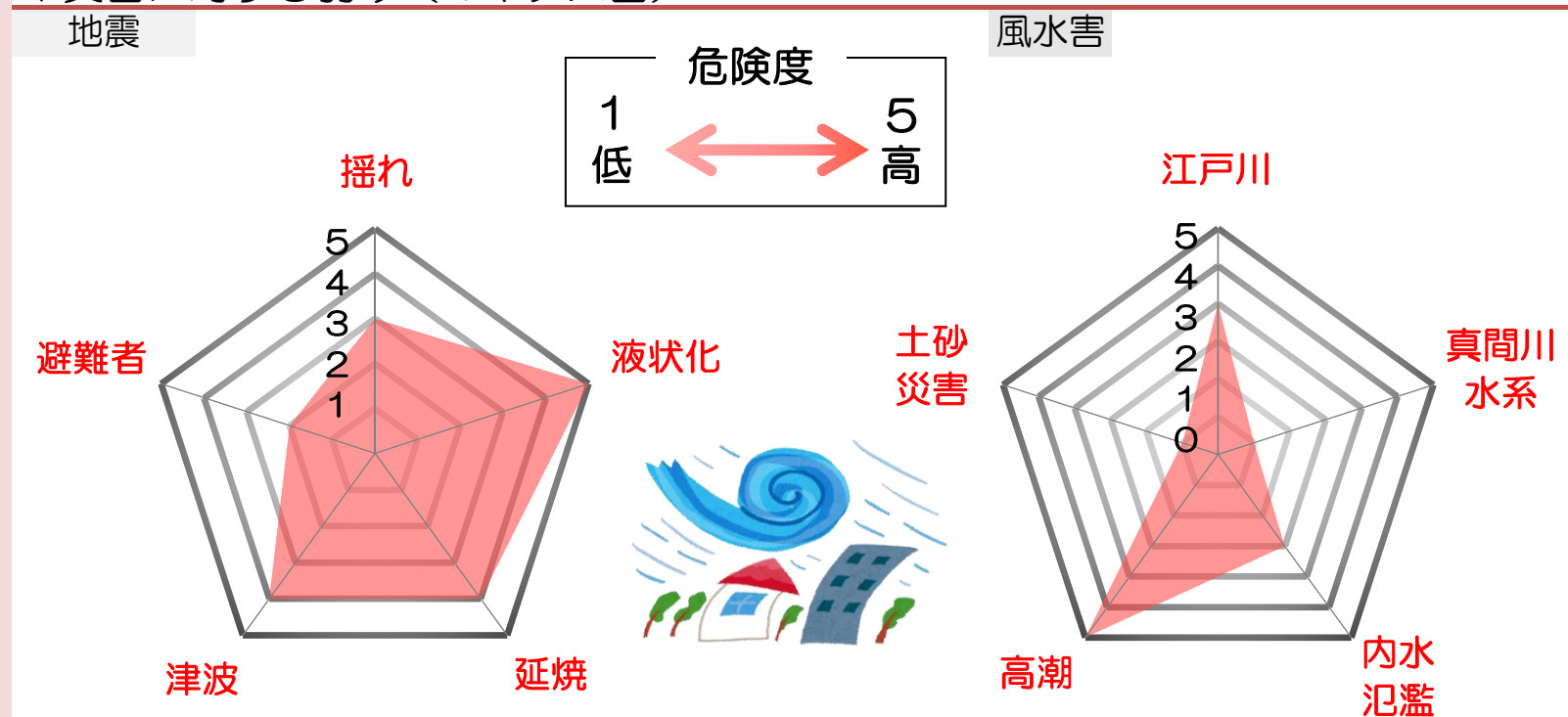
市川市防災カルテ

新井小学校区

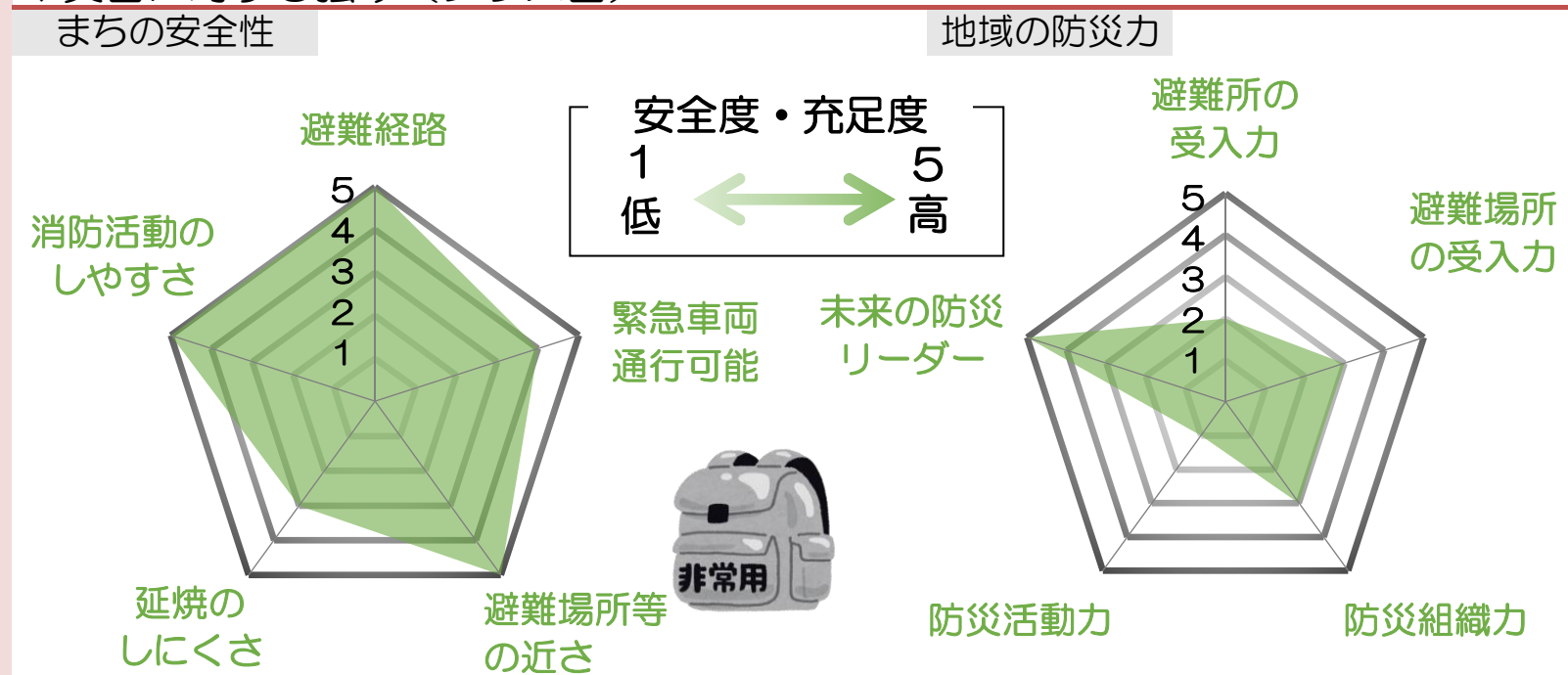


災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

新井小学校区は、地震災害については、最大震度6強の揺れが予測され、液状化や延焼の危険性のほか、津波による猫実川からの越水で浸水の危険性が高い傾向にあります。風水害については、高潮による浸水の危険性が高い傾向にあります。

一方で、まちの安全性については、評価項目について総じて高い傾向にあります。また、地域の防災力については、未来の防災リーダーは高い傾向にあるものの、避難所の受入力、防災活動力は低い傾向にあります。

（５）防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
新井小学校	-		
広尾苑	○		

◆避難場所

名称
新井小学校
広尾防災公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設（公設）	なし		医療救護所	東京ベイ・浦安市川医療センター前
			関連施設	なし



（６）被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	新井小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	2.6%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	10.9%	11.8%
	焼失棟数の割合	5.4%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	16.8%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.2%	0.4%
	避難者の割合	15.4%	20.0%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	新井小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	76.5%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	37.5%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	100.0%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、非木造建物がやや多いことから、建物被害は少ない傾向となっています。また、人的被害については、市全体より負傷者は少なく、死者や避難者もやや少なくなっています。

一方で、風水害については、高潮の浸水、江戸川の氾濫による影響が大きく、市全体と比較して高潮、江戸川の氾濫による浸水棟数は多くなっています。

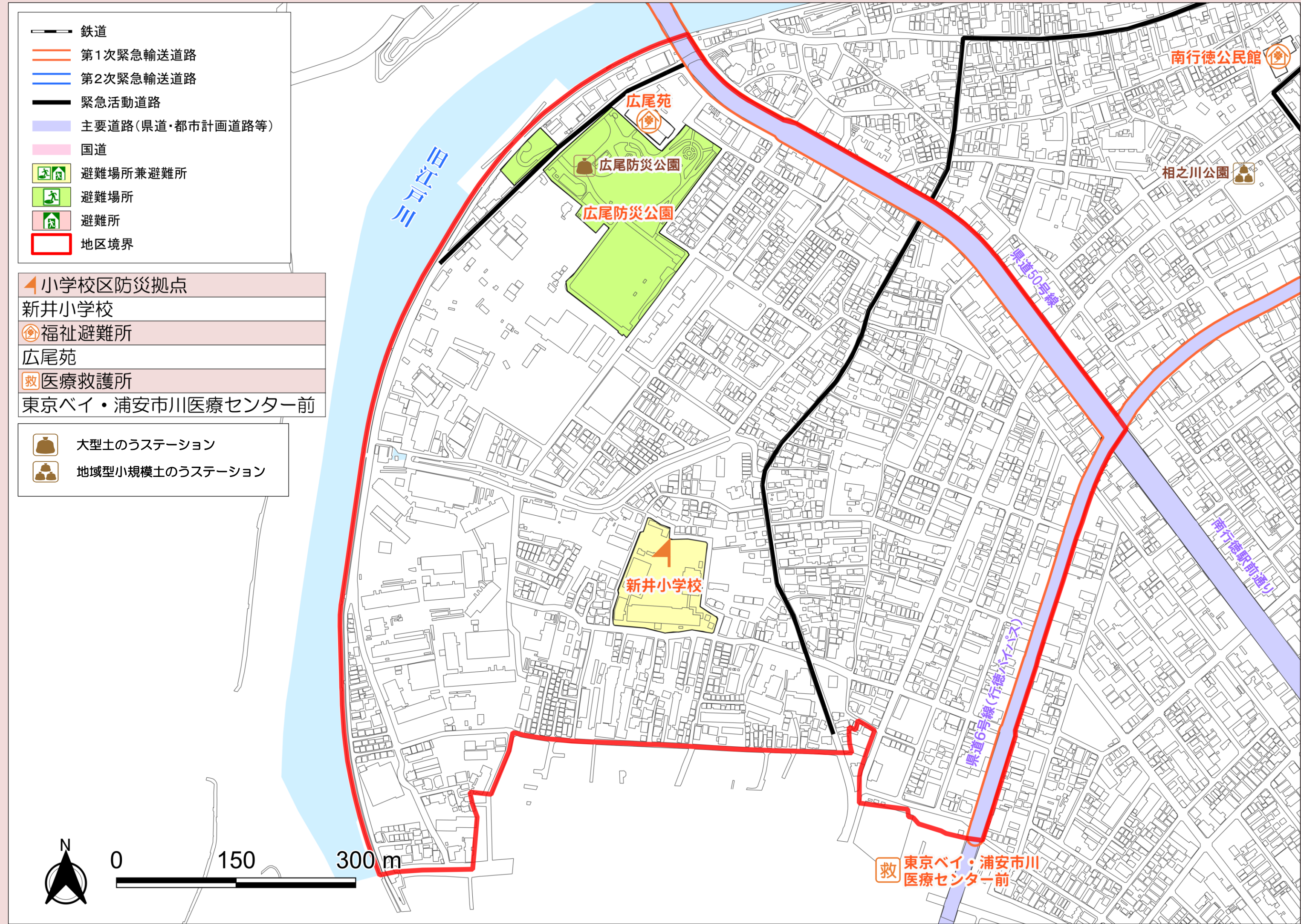
（７）防災上の課題

項目	課題
地震	地区内で広く、震度6強の揺れが予測され、液状化、津波による浸水の危険性が高いことから、耐震対策やライフライン途絶に備えた家庭での備蓄対策、延焼対策、津波避難対策が重要です。
風水害	河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮による浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区のまちの安全性に関する評価項目は総じて高い傾向を示しているものの、緊急車両が通行可能な道路や初期消火対策等を行うことが重要です。
地域の防災力	地区には、避難所の充足度が低いことから、災害発生時は避難所が混雑する可能性があり、在宅避難ができるよう自宅の備えを整えることが重要です。また、防災活動力が低いことから、災害発生時に即座に対応できるよう、初期対応や応急復旧活動に対する対策を行うことが重要です。

（８）防災対策の方向性

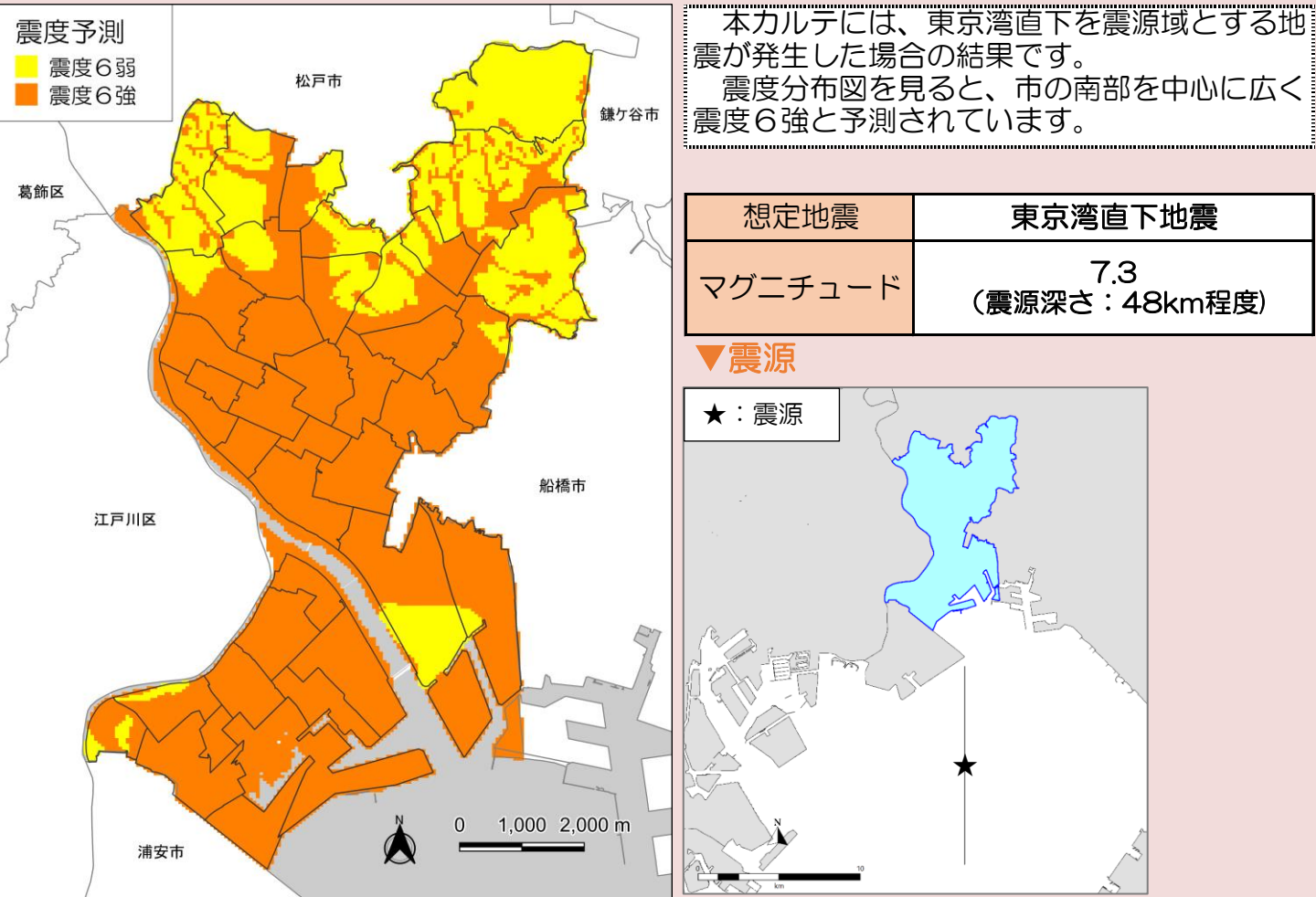
項目	取組の方向性
地域の取組	消防活動に対する対策として、市が実施する避難訓練や消火訓練等に地域ぐるみで積極的に参加することが重要です。 高潮による浸水が想定されることから、高潮時の避難場所等を確認し、あらかじめ地区の中で情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置を進めるとともに、家具の固定、ライフラインの途絶に備えあらかじめ飲料水等の備蓄をしておくなど自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、同じく「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

(9) 防災マップ



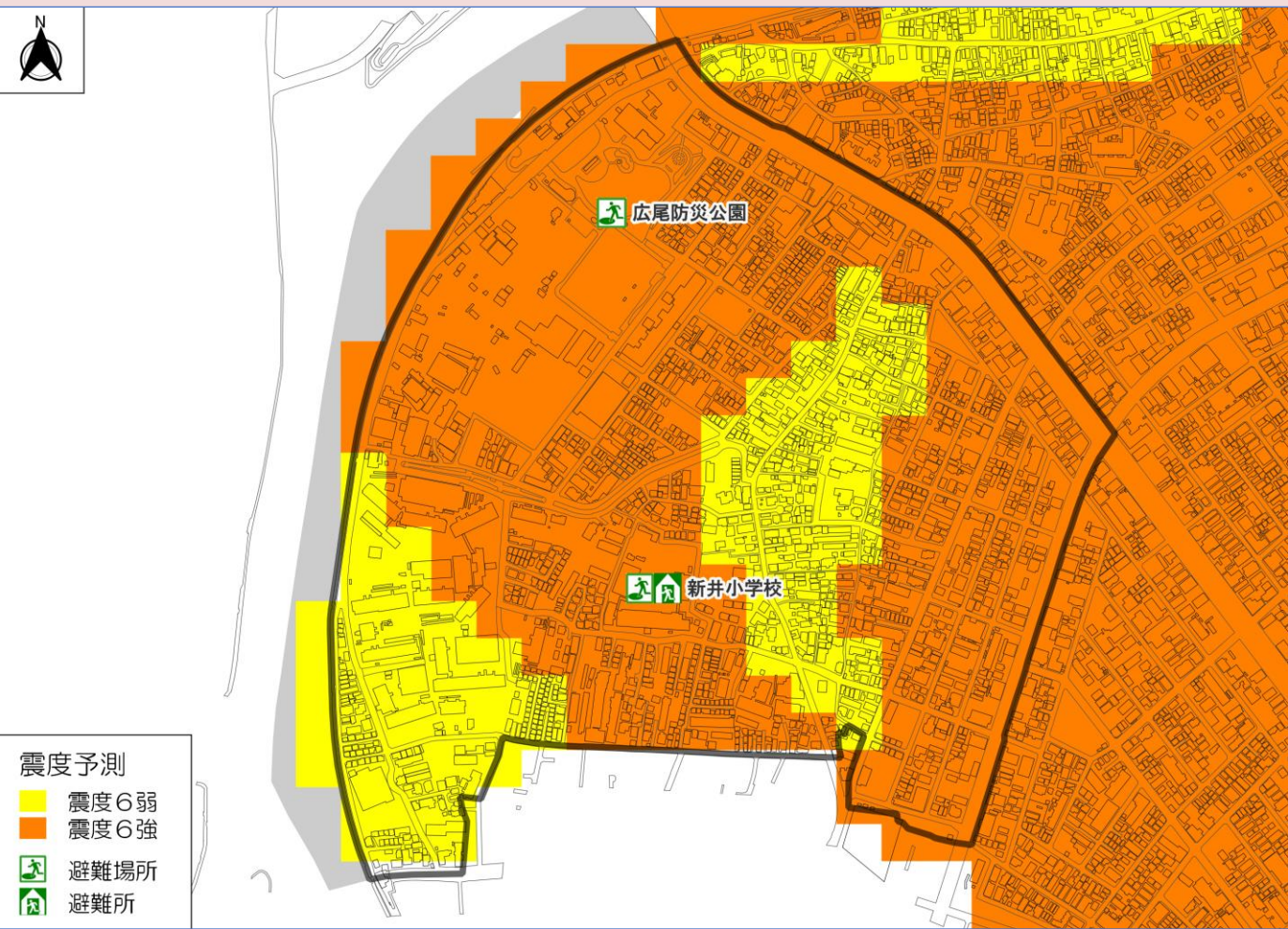
(10) 基礎資料

①市全域の震度分布図

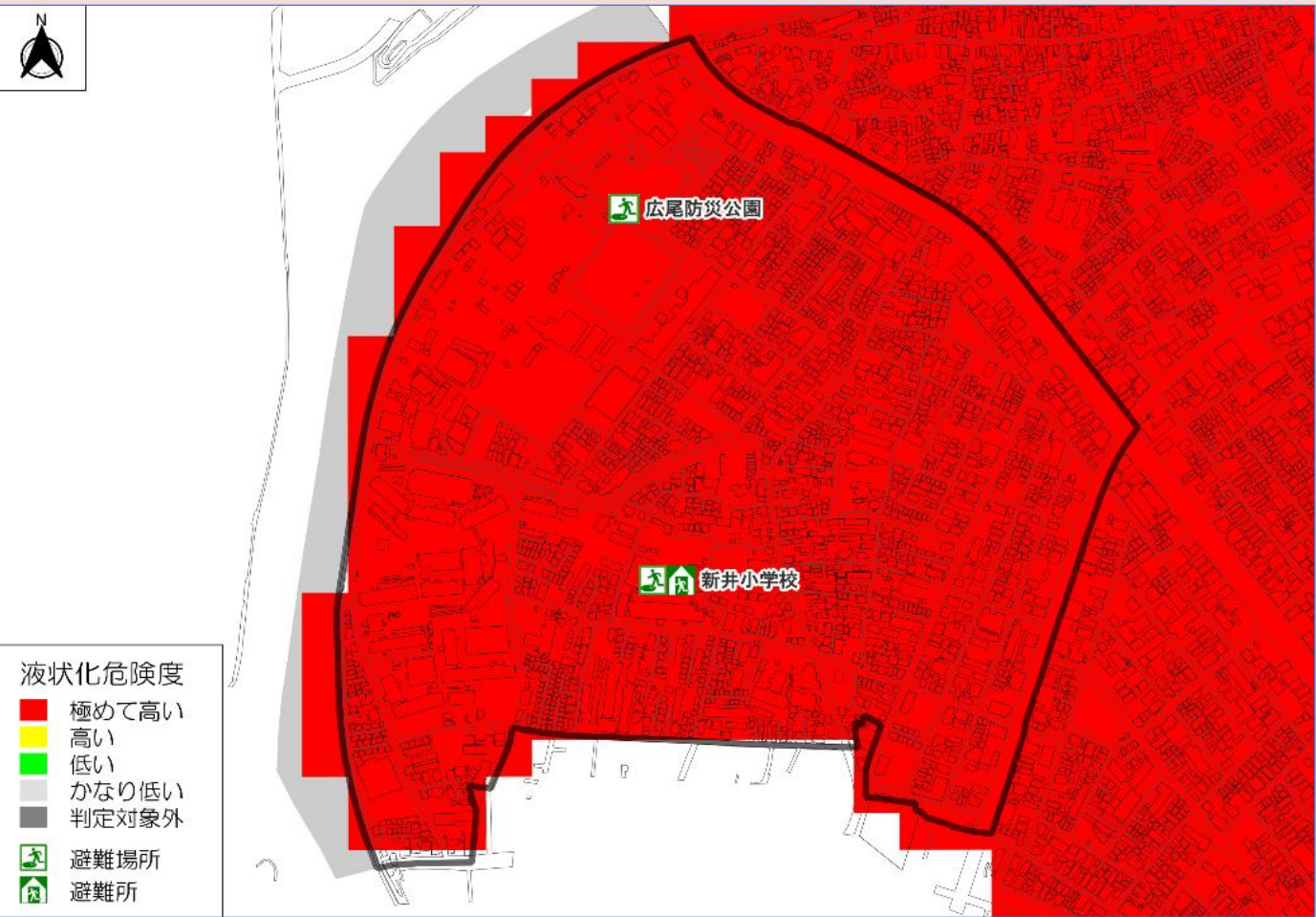


②震度分布図

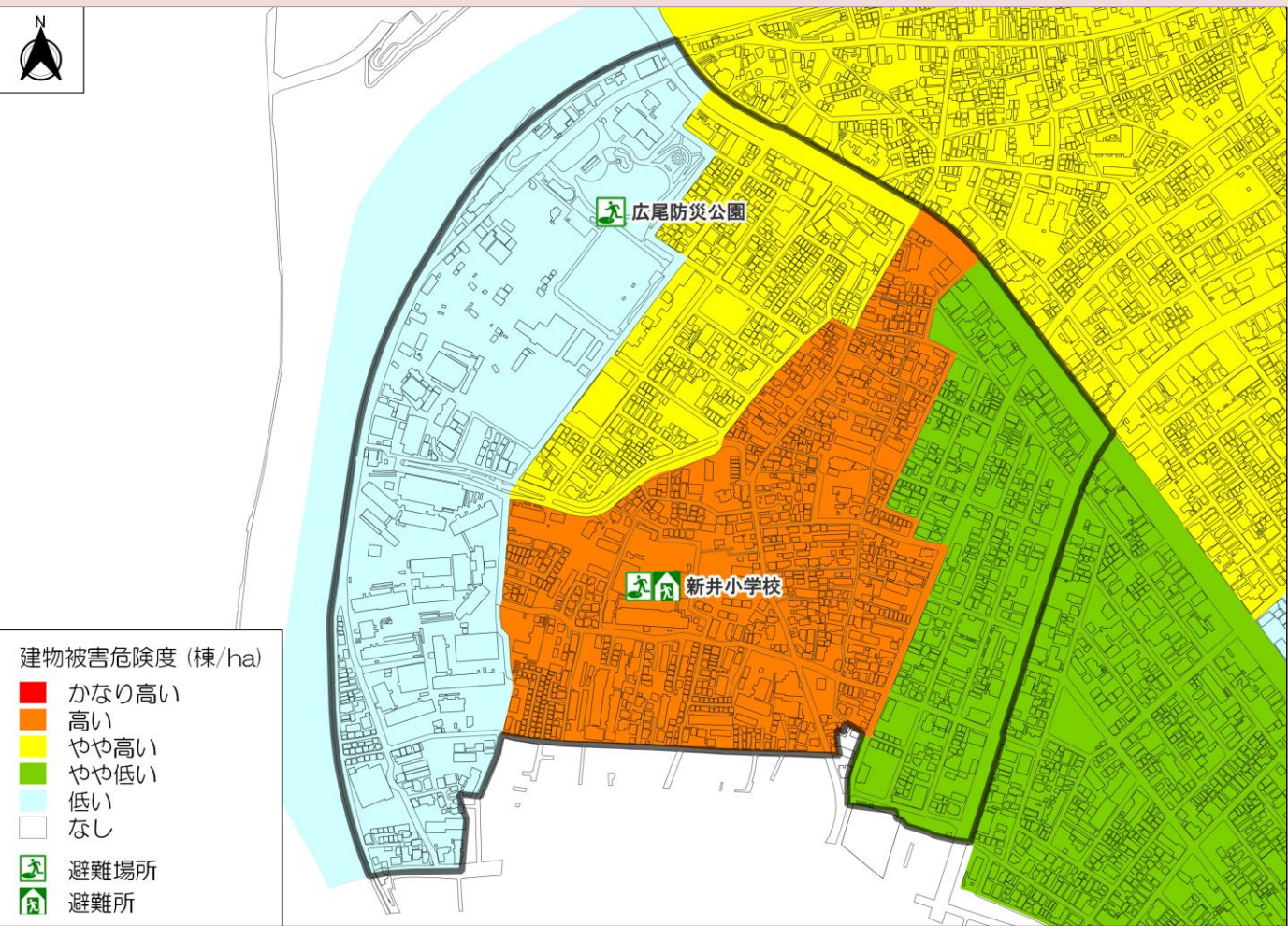
※本結果は市川市地震被害想定結果（令和5年度）に基づいています。



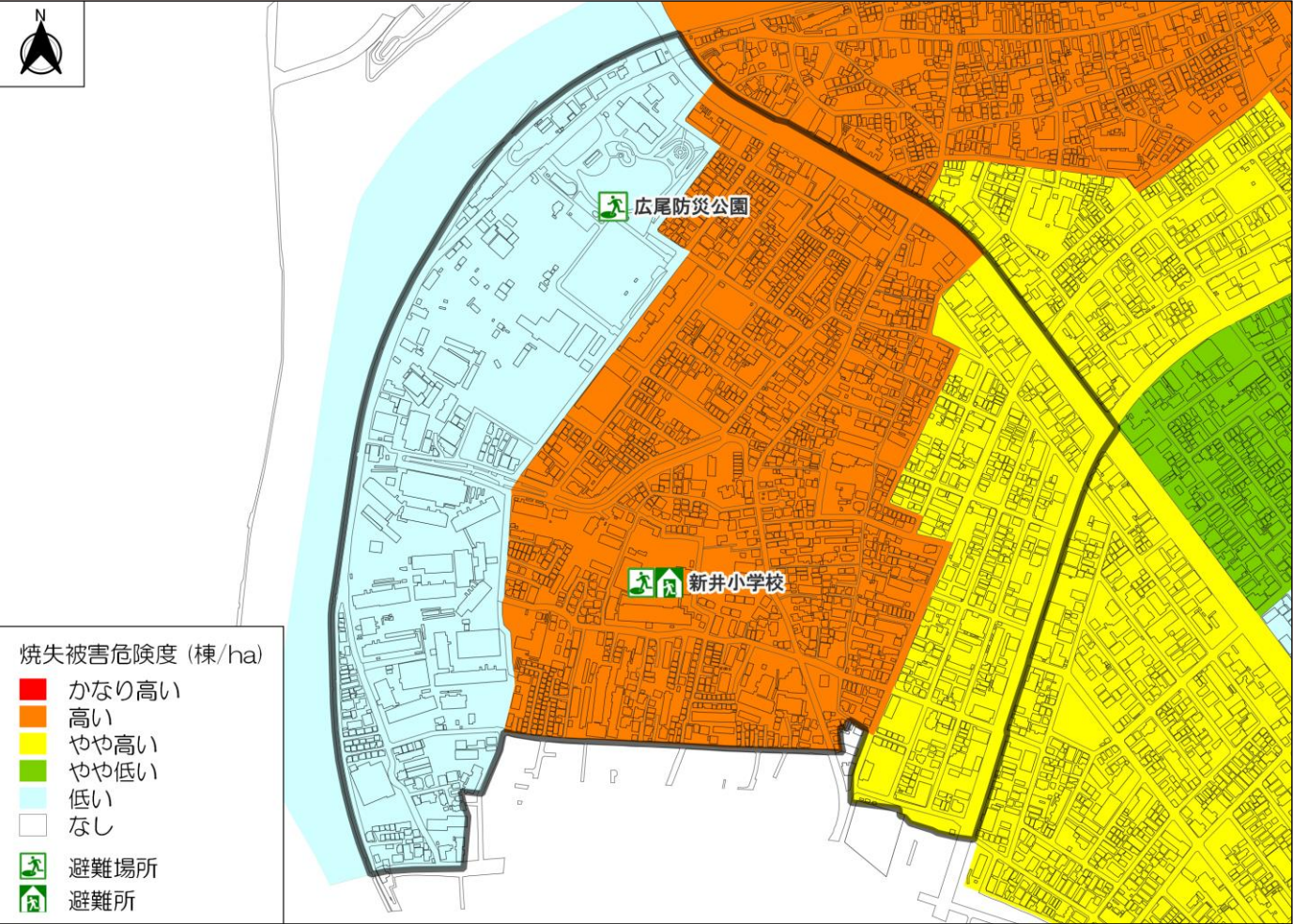
③液状化危険度



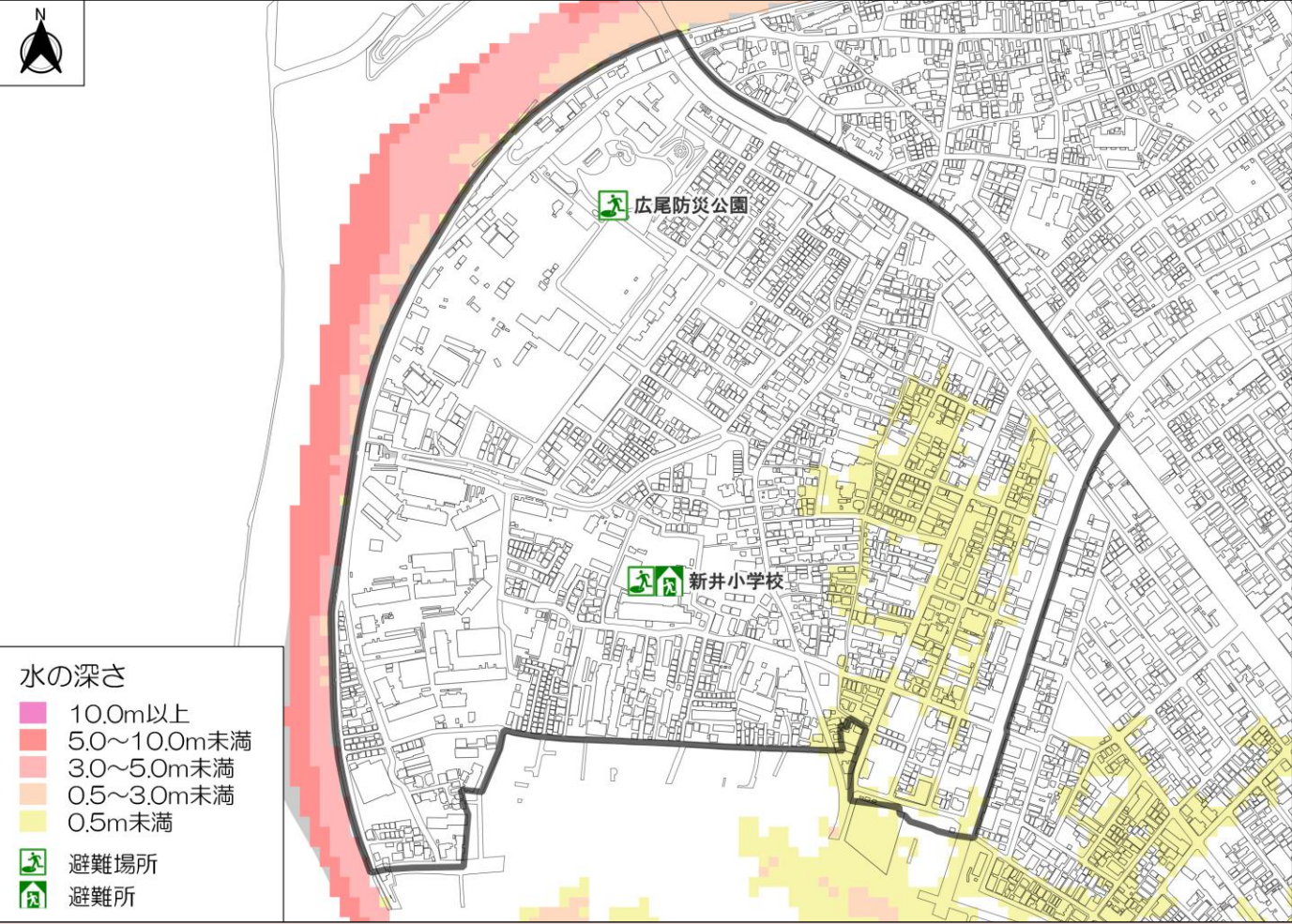
④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑥津波による影響



平成24年4月：千葉県

⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。

水の深さ

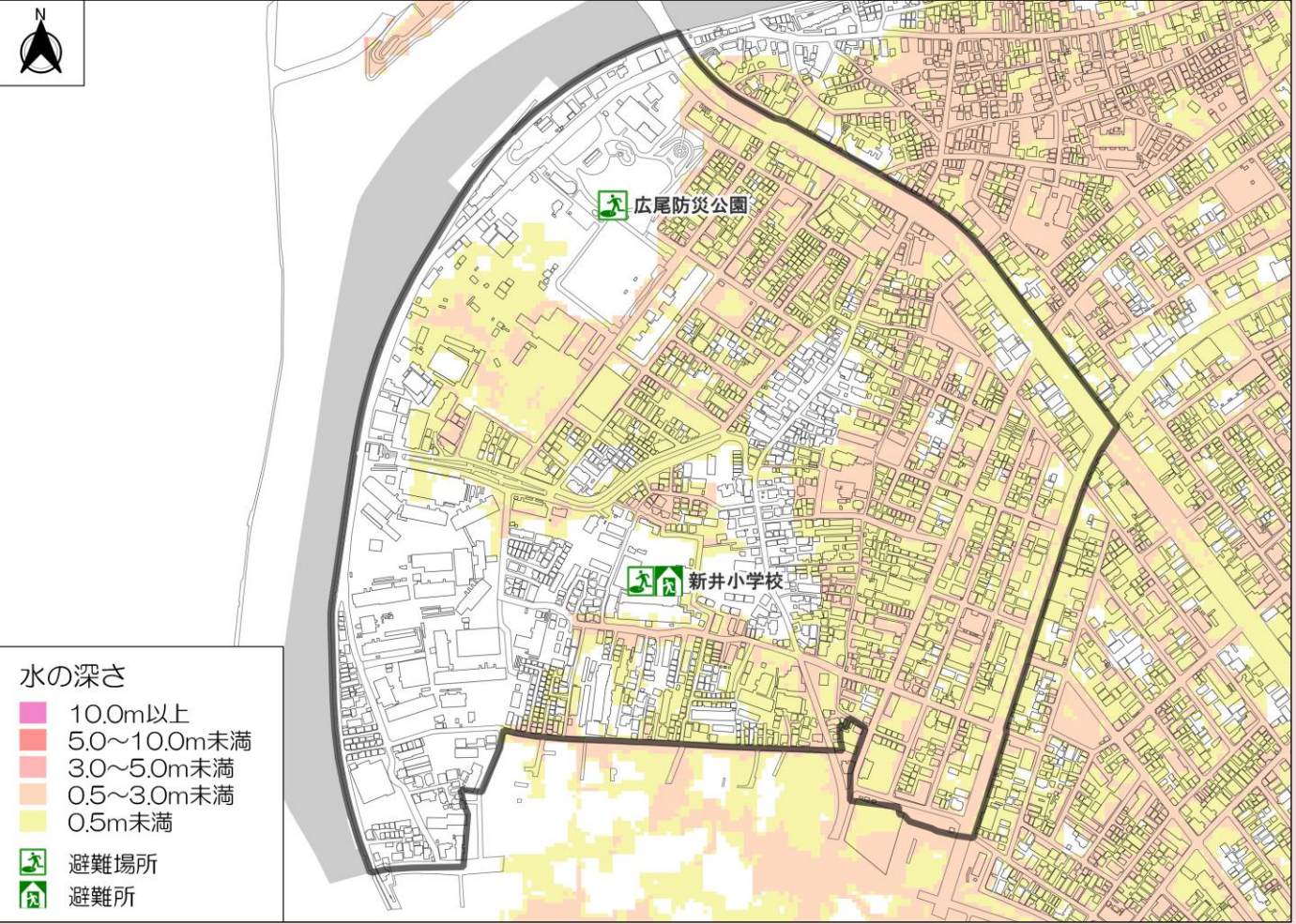
- 水の深さが5.0m以上
- 水の深さが3.0～5.0m未満
- 水の深さが0.5～3.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



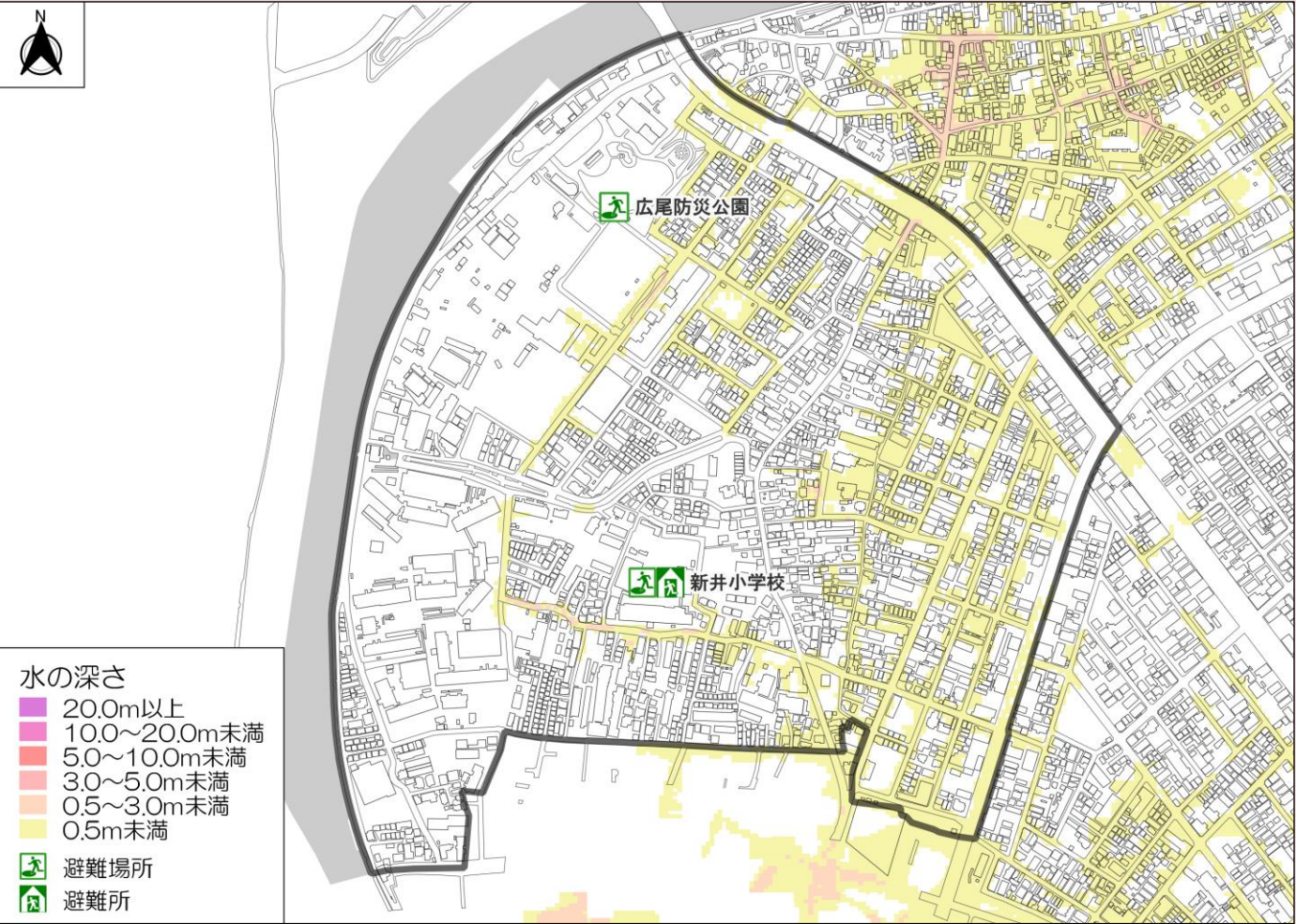
※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

⑧洪水（江戸川）



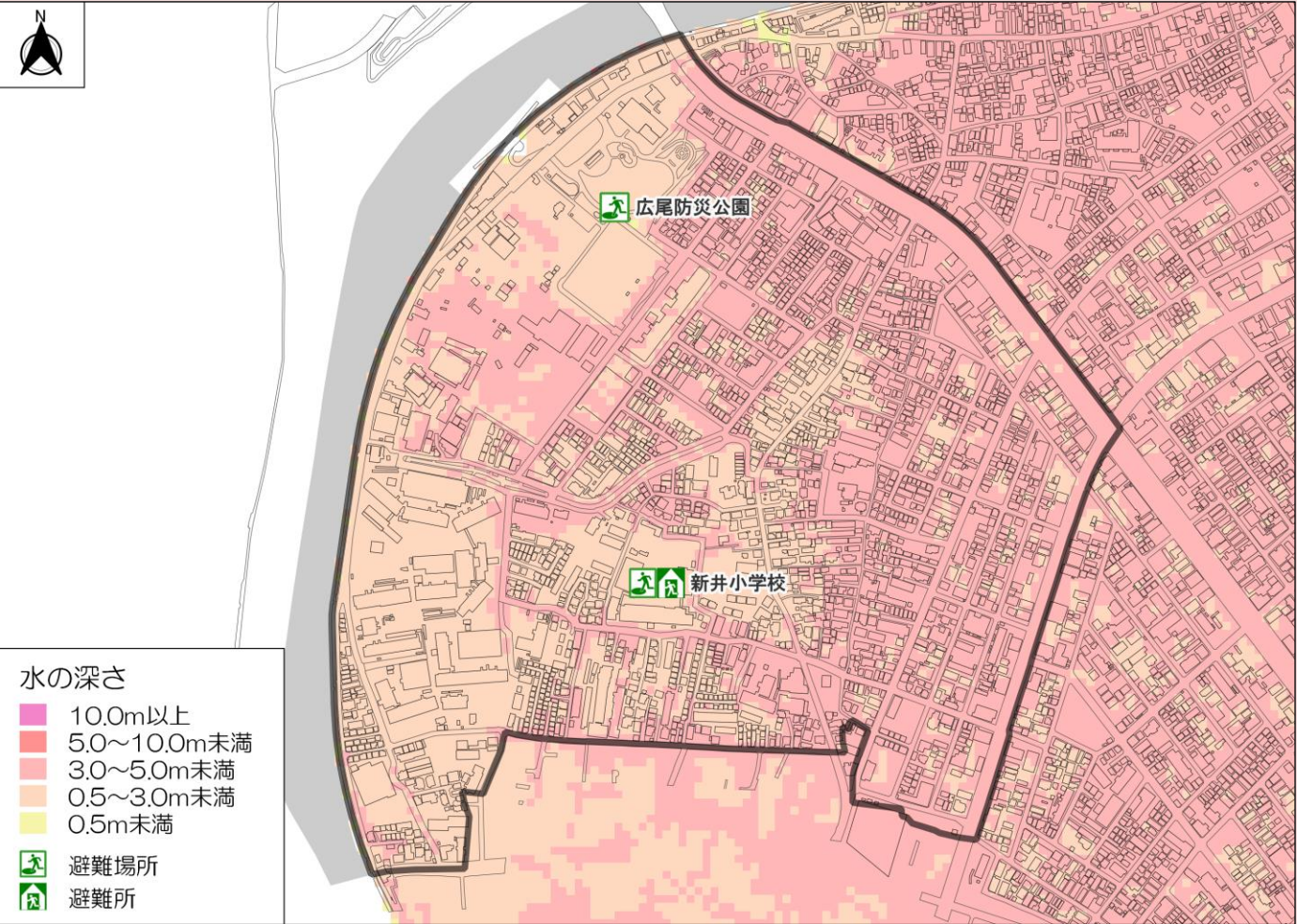
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県

◆メモ

